広陵町教育委員会だより

令和４年度　３月号　　３月１０日発行
広陵町教育委員会
北葛城郡広陵町南郷583-1
TEL0745－55－1001　文責・編集　植村

難波津に　御船泊（みふねは）てぬと　聞こえ来ば
紐解き放けて　立走りせむ

３月の万葉集　巻5－896　山上　憶良

（難波の港に御船が帰ったと聞こえて来たならば、紐を結ぶのも忘れて走り出て迎えに行きましょう）

旅立ちと別れの季節、謙虚さと自信を!

日ごとに春らしい暖かな日差しが大地に注がれています。6日は24節気の3番目である「啓蟄（けいちつ）」でした。冬ごもりをしていた生き物が動き始める頃と言わ

この時期、幼稚園やこども園での卒園式、小中学校での卒業式があり、まさに「**旅立ち**」の季節となります。また、年度末ということから、一般の会社や役所、学校園では人事異動があり、ある意味「**別れ**」の季節でもあります。特に、卒園、卒業する子どもたちには新たな世界に夢と希望をもって大きく羽ばたいてほしいと思います。

ところで、私が真美ヶ丘中学校を退職する年の卒業式での式辞で「謙虚さ」と「自信」ということについて話しました。その一部をこの紙面を借りて紹介します。

これから先の人生を生き抜く力として「謙虚さ」と「自信」を持ち合わせてほしいのです。皆さんが高校や大学などを出て飛び込む社会は大きな変革が起こっているはずです。アメリカのキャシー・ダビッドソンは、2030年には『今の子どもたちの65％がまだ存在していない職業につくだろう』と予想しています。近い将来、今の私たちの仕事の多くはAI（人工知脳）やロボットに替わってしまう可能性が高い一方で、新たな職業が生まれる可能性も大いにあるのです。また、世界の50億の人々とスマホでつながる時代が後数年で来るとも言われています。こうした社会を強く生き抜いていく力の中で、私が思うに、最も必要不可欠な力が、人と人とをつなぐ言葉によるコミュニケーション力であり、人を思いやる心です。しかもそれ以上に、出会った全ての人と言葉を交わし、心を通じ合わせる上で最も大切にしてほしいのが「謙虚さ」です。

「謙虚さ」とは、自分の能力や地位などにおごることなく、素直な態度で接することです。人が出会うと必ずそこには何らかの上下関係ができます。立場が上になればなるほど、上から目線で人に接してしまう場合が多いと思います。そうなってしまうと人間関係にほころびが生じ始めます。ある調査で「謙虚な人」の共通点は「高い自尊心がある人」だと報告されています。謙虚な人は自分をよく知っていて自分に「自信」があるというのです。

よく、謙虚さをバカにして、「下手に出て、自分を安売りしている」とか「自分に自信がない」などと誤解している人がいますが、実は、その逆で、自分にきちんと自信があり、満足している人ほど、相手を敬う気持ちの余裕があるのです。他の人に対して攻撃的で傲慢で、人を傷つけるような行動をする人は、例外なく自尊心の欠如を表しています。このような人は他人を引きずり下ろすことでしか自分に自信が持てないように思います。

これからの皆さんは、予想も付かない未来という荒海に船出しようとしています。そんな荒海を乗り切る力こそが「謙虚さ」と「自信」だと思います。

私は、あえて皆さんに言います。「謙虚さと自信を胸に秘めて突き進め！」と。

このようなことを卒業生に私のメッセージとして伝えました。

謙虚さだけを取り上げると、「**実るほど　頭（こうべ）を垂れる稲穂かな**」ということわざで示された内容と一致するものだと思います。

立派に成長した人間、つまり人格者ほど頭の低い謙虚な姿勢であるという事を指すことわざです。「頭を垂れる」という言葉自体に「相手に敬意を払って自分を謙る」という意味があるので、稲が立派に成長するに従って、稲穂の部分（稲が実を付けている部分）が垂れ下がってくる様子を成長していく人間に例えていると思います。

「偉そうに、こんなことを書いているあなたはどうなんだ。」と問われそうですが、私自身、今置かれている立場の中で、いつもこうでありたいと自戒しています。

詩のコーナー

「ありがとう」　　**清水　英雄**

つらいことがおこると感謝するんです
これでまた強くなれるとありがとう
悲しいことがおこると感謝するんです
これで人の悲しみがよくわかるとありがとう
ピンチになると感謝するんです
これでもっと逞しくなれるとありがとう

つらいことも悲しいことも　ピンチものりこえて
生きることが人生だと言い聞かせるのです
自分自身に　そうするとふっと楽になって
楽しくなって　人生がとても光輝いてくるんです
ピンチはチャンスだ
人生はドラマだ
人生がとてもすてきにすばらしく
よりいっそう光り輝きだすんです
ますます光り輝く人生を
ありがとうの心と共に

裏面へ

教育委員会関係団体の取組

3年ぶりのスポーツ少年団スキー活動!

2月17日(金)から19日(日)に広陵町スポーツ少年団のスキー活動が3年ぶりに行われました。活動場所は、これまで20年近く活動している白樺高原国際スキー場でした。

17日の18時からかぐや姫ホールで出発式が行われ、松井副町長、吉村議長、植村が参加する64名の子どもたちの激励にかけつけました。

その後、2台のバスに分かれ、一路、白樺高原へ。途中、駒ヶ岳サービスエリアでの休憩時はたくさんの雪が積もっていて、その雪を見て子どもたちは大はしゃぎでした。ホテルに到着したのは午前1時過ぎでしたが、子どもたちは元気に各自の荷物を持って部屋へと向かいました。

18日は天気も良く、雪の斜面はキラキラと輝き絶好のスキー日和でした。ほとんどの子どもたちは初心者でしたが、指導員の教えを受けて昼頃にはボーゲンで上手に滑ることができる子どもたちが増えていきました。午後には、リフトに乗って山上から滑り降りる班も多くなり、思い切りスキーを楽しんでいました。

夕方には活動を終え、ホテルの温泉で疲れを癒やすとともに個々が好きなものを食するバイキング料理を堪能していました。

夜遅くには、スキー場一帯に雨が降り始め、翌日の朝にも降り止まず、雨の状況では活動を断念せざるを得ませんでした。

子どもたち一人一人はせっかく滑ることができるようになったのに、この雨は恨みの雨とも言えるものでした。子どもたちにとって、スキーの楽しさも半分ぐらいしか味わえなかったのではと、とても心残りなスキー活動であったようです。

読書感想文コンクールの表彰式を開催しました!

2月15日(水)に読書感想文コンクールの表彰式を役場大会議室で開催しました。広陵町教育委員会としては、初めての取組で、対象を小学1年生から中学3年生までとし、子どもたちの活字離れに歯止めをかけること、学力調査の結果から課題があると思われる書く力、読む力を向上させること、そして何よりも子どもたちに読書習慣を身に付けることを目的に読書感想文の募集を企画しました。また、今年度は、広陵図書館の開館25周年にも当たることから、そのイベントの一環としても取り組みました。

担任の先生や国語の先生から読書感想文の上手な書き方を教えてもらった上で、読書週間であった昨年の10月27日～11月9日に自ら選んだ本を読み、その感想を書いてもらい、11月22日を募集の締め切り日としました。募集の結果、小学校から1419点、中学校から813点の応募があり、小学校低学年の部、中学年の部、高学年の部、そして中学校の部から厳正な審査の結果、それぞれの部で町長賞、教育長賞、図書館長賞を1点ずつ選考しました。

表彰式には山村町長さんをはじめ、教育委員の皆さん、図書館長、そして保護者の皆さんにも出席いただき受賞した子どもたちに花を添えていただきました。

表彰された皆さんを下記に紹介します。

【町長賞】	低学年の部	堀本	紀花さん(西小2年)
	中学年の部	藤岡	千裕さん(真美一小4年)
	高学年の部	辻	梨乃さん(西小6年)
	中学校の部	清水	咲人さん(広陵中3年)
【教育長賞】	低学年の部	奥田	芽依さん(北小1年)
	中学年の部	北中	心汰朗さん(東小4年)
	高学年の部	澤井	理帆さん(真美二小6年)
	中学校の部	石塚	千晴さん(真美中2年)
【図書館長賞】	低学年の部	米田	美樹さん(真美一小2年)
	中学年の部	大滝	一華さん(真美二小3年)
	高学年の部	元根	遙さん(東小6年)
	中学校の部	岡本	颯季さん(真美中2年)

いじめ防止標語の最優秀作品の表彰式!

2月24日(金)に令和4年度いじめ防止標語の最優秀作品の表彰式を役場第一委員会室で開催しました。標語募集は、広陵町いじめ防止基本計画が策定されたことを受け、いじめ防止啓発の一環として令和元年度から取り組んでいるもので、令和4年11月に町内小学校4・5年生、中学校2年生を対象に行いました。

募集の結果、4年生311点、5年生287点、中学2年生249点、計847点の募集があり、厳正な審査の結果、各学年の最優秀作品を1点ずつ選考しました。

表彰式には、最優秀受賞者と保護者の皆さん、教育委員の皆さんも出席いただきました。受賞者と作品を下記に紹介します。

小学校4年生の部　　吉村　依真さん(広陵西小学校)

「だいじょうぶ？　そのひとことで　元気出る」

小学校5年生の部　　水本　健介さん(広陵東小学校)

「いじめはね　一生消えない　きずになる」

中学校2年生の部　　松本　瑠依さん(真美ヶ丘中学校)

「知らんふり　心がこわれる　音がする」

※応募された皆さんには、最優秀作品を掲載したクリアファイルを届けました。